

税制調査会企画会合（第 25 回）終了後の会長会見録

日 時：平成 20 年 7 月 22 日（火） 16 時 25 分～

場 所：中央合同庁舎第四号館共用第一特別会議室

○香西会長

どうもご苦労さまです。香西です。よろしくお願いいたします。

○司会

それでは、本日、第 25 回の税制調査会企画会合後の記者会見を始めたいと思います。

まず、会長から本日の会議について、何かコメントはございますでしょうか。

○香西会長

本日の会議は、聞いていただいたと思いますけれども、昨年 11 月に答申をまとめてから初めての会合であったわけで、半年ほど時間が経っておりました。昨年の 11 月の答申というのは、一応総力を挙げて、その時点において考えたものですが、その後の半年間の間の激動というのも非常に激しかったということを幾つか感じているわけです。

私たちとしては、昨年の答申でそういうことを言ったということは、もう消せないわけですし、それをベースとして考えておりますけれども、同時にその後に起こったことにおいて、どれだけ直していく必要があるのかということをこれから議論したい、と私は思っておりましたので、今日は特にあまり具体的な、会議の順序とか、そういったことは別として、最初の御説明については、それぞれお願いしたわけですから、きちんと順序正しく説明していただきましたけども、後半のフリーディスカッションについては、あらかじめデザインは何も付けないで、皆さんの御意見を聞いたというわけです。

私の感想としては、それぞれ非常に、私にとっては役に立ついろんな問題が提起されましたので、これがどういう形になるかわかりませんが、少しずつ整理をしていって、そして先ほど言ったように、21 年度の税制についての答申を準備していく第一歩としたいというつもりでございます。

簡単ですがそれぐらいです。

○司会

それでは、質問がある方はどうぞ。

○質問

まず、先ほどまさにおっしゃった、その後の激変という話なんですけれども、特に今日議論の中で、ちゃんと議論していくべきだという意見が多かったように見受けられた消費税についてなんですけれども、ベースキャンプにするとおっしゃっている去年の中期答申の中では、社会保障財源の中核を担うにふさわしいとか、目的などについても結構細かく書いていらっしゃるという中で、更に議論していく課題というのは

一体何があるのか、どういうことを想定されているのかというのを伺いたいと思います。

○香西会長

今日出た御議論の中にはいろいろあったわけで、景気状況が変わってきているのではないかという御意見もありましたね。それから、国際情勢自体も変わってきているのではないか。そういう中で、これでいいのかとか、そういうこともありました。

また、社会保障についての考え方も、今日、吉川先生からお話がいろいろありましたけれども、これも今のところはまだ中間報告ですけれども、社会保障が税を使ってどういう形を取るのか、それがどういう形になるのかということについては、今のところはまだ結論が出ていないわけで、それは今後とも、国民会議の方の動きとも十分フォローしながら、必要があれば、私どもとしては税金をある程度つぎ込んで、社会保障をサステナブルなものにしていくということは去年言ったところですし、その場合には消費税というのが重要な役割を果たすだろうというところまで言っているわけですが、しかし、それはどういう形で社会保障制度がまとまるか、ということも確認しないと、賛成できるということができないかもしれないということはある得るわけです。

ですから今後とも税調と国民会議とでは、それなりに連絡を取りながら、落ちるべき結論が見えてくるのを待ちたいと、いずれも、秋を目指しているということですので、その間に、私も勉強したいと思っておりますし、そういう形で、諮問会議では税と社会保障と一体的にというようなことも書かれているようですから、そういうことも踏まえて、落としどころというのが、秋ぐらいからだんだん、もう少しクリアになってくるということを期待しているわけです。

○質問

今のに絡んで、最後に、今回の議論は少ししんどいと会長はおっしゃったと思うんですけれども、これは今の議論に絡めて、例えば政治環境などがなかなか決めたように行かないような世界になってきていると、こんなこともお考えなのか、もしくは環境の変化という、特に政治環境というものが入っているのかどうかというところを伺いたいと思います。

○香西会長

それは役人的と言ったら申し訳ありませんけれども、事務的に言えば客観条件というか、先が読めるというのは非常に楽なことであることは間違いありませんけれども、しかし、先のことが分からないということ自体が、やはり一つの大きな環境なわけで、それをけしからぬと言ってみても始まらないだと思います。

そうなると、ぴたりと当てることはとても無理だと思いますけれども、いろいろなことを前提としながら、こういうふうに考えたらどうか、ああいうふうに考えたらどうかというふうに、私たちとしても考えて、それなりに対応して、どこまでフォロー

できるかわかりませんが、いろんな考え方について検討の視野に入れていくということしか対応策はないのではないかと思います。

○質問

もう一点、多分この時期に政府税調が、秋のとりまとめに向けて開かれるというのは、例年に比べれば2か月程度早いのかなという気もするんですけども、それは多分きつと、総理が、確か道路特定財源の一般財源化のときだったかと思いますが、政府税調も前倒しで開きたいというふうに発言したということを受けてだと思えますけれども、早く始まったということはどういうふうに受けとめていらっしゃるんでしょか。

○香西会長

私は今日の議論を聞いていて、やはり税調は税調の中でかなり議論しなければいけない。余り外の情報ばかり集めて行くということではなくて、やはり委員の皆さんはそれぞれの意見があるわけですから、できるだけそれを吸収していくという努力をする、全部吸収することはなかなかできないかもしれませんが、できるだけ税調としては内部の議論を尽くすという形に持っていきたいと、今は思っております。今年はやはり政治もそうですし、国際情勢もそうですし、景気もそうですし、いろいろな点で難しい条件が、予見が非常に難しい条件がたくさん出てきているわけですから、これも一つの経験だなと考えて対処していきたいというのが、単なる感想でありますけれども、私の現在思っているところです。

○司会

ほかにございませんでしょうか。どうぞ。

○質問

今の質問とお答えに相当関連する部分があるかと思います。重なって恐縮なんですけれども、まず政治状況という部分で言いますと、党税調は既に議論を始め、自民党の税調、公明党もそうですが、議論を既に始めておりますけれども、中では消費税率の引上げに対して相当慎重な意見というのが多く見受けられます。

こうした政治の世界で消費税率の引上げを打ち出すべきではないというか、それに対する慎重な意見が出ている中で、政府税調としてどういうふうなスタンスで消費税の扱いを議論するべきだとお考えか、改めてお答えいただけますでしょうか。

○香西会長

政治的にどういう決断が下されるかということは、これは制度的にいつて国会の仕事ですし、したがって、政党の仕事、政府の仕事ということが中心になるのは仕方のないことと言いますか、それが憲法が予定していることですから、政治的にそういう決断が下されたら、それはそれで一つの事実ですね。その事実を前提として、更に今まで考えてきたことの中で、どこかあるところは修正しても、こういうふうな考え方ができるというふうに行くということも必要ですし、仮にそれが事実ではない、その

事実ではないとしたらこうだということは、政治が決めてしまった後には、直接には余り利用される情報にはならないだろうと思います。

しかし、我々としては、こういうことが考えられるということは、それなりに考えていくと、別に対決したいとか、政治のことに口を出したいということは全くありませんけれども、必要があれば考えるし、それから政治の方向がはっきり定まったら、ある程度それが行われるという前提の下でいろいろな案を考えていくということも、現実の問題としては必要になるんだろうと考えております。

○司会

どうぞ。

○質問

答申なんですけれども、昨年中長期的なものを出されて、それをベースにするということで、今回はゼロからつくるというよりは、それを修正するような形のものを出されるということでよろしいのでしょうか。

あと時期は、11月でよろしいのでしょうか。

○香西会長

11月だと大体予想しております。これは国会の日程がありますから、私たちとしては11月ぐらいにはまとめておきたいと思います。

もう一つは何でしたか。

○質問

去年のものを修正したものを出されるか。

○香西会長

去年の修正を別にしたいわけではないんですけれども、去年はかなり長期的なスタンスで書きましたから、あれがどうなったと言われることは覚悟しなければいけないと思っています。その場合には、去年は考えたけれども、変わる、あるいは変えなければならないことがあるかどうかということ、謙虚に自己批判しながらもう一度読み直すこともこれからの仕事であろうと。自分としては、自分が書いたものですから、勿論、愛着もありますけれども、それで通るかどうかということを反省しながら、新しい事態と、今日の話にもいろいろありましたけれども、非常に今までにないことが起きているという御意見が多くて、それは本当にそのとおりでと思うんですが、それをどういうふうに、どういうところが違うのかということ、きちっと整理するのは、なかなか大変なことだと思っておりますけれども、そういう見方もあるということ、これを前提に、いろいろ考えていくということで、これは去年の答申を書いた人間としては、そういうふうに反省というか、再検討するのは、1つの義務ですから、好むと好まざるにかかわらず、今年は新しい情勢がいろいろできているという御意見も非常に強いわけですから、その中でもう一度考えるところは考えることにしたいと思っております。

○質問

基本的にゼロからつくる感じではないということですね。

○香西会長

しかし、去年何も触れてないところもあるわけですね。それについては、ゼロではないにしても、去年触れた範囲の中だけで議論するということはある得ないわけですね。新しい状況もあるし、21年度のことに関わるということについては、去年書いてないものもたくさんあるわけですから、そうびしゃっと、これが1つのベースだということでは申しましたけれども、そのベースにないものは全然付き合わないということでは決してないわけで、その答えは21年度の答申ということですから、それはそれでまた1つまとまったものにしなければいけない。去年と同じです、ここは変えました、そういう修正版だけでは役に立たないものもあり得るわけですね。新しい情勢が起きていることに配慮すればですね。そういうふうに思っております。

○司会

ほかにございませんか。どうぞ。

○質問

再度、消費税の関連なんですが、去年の答申では社会保障財源等を考えれば、選択肢の1つとして消費税引上げも検討すべきだという方向性を打ち出したわけですが、今年、去年の答申を前提にして、更に一步踏み込んで、引き上げ幅だとか、いつまでに上げるべきだという時期までに踏み込むべきだと会長自身は考えてらっしゃるでしょうか。その点についてお願いします。

○香西会長

そこまでまだ考えていないというか、そういう事態を必ずしも想定しておりません。それは時と場合によるわけだと思います。そういうことが必要だと思えばそうするだろうと思いますけれども、しかし、従来の政府税調答申で時期や日を書いたことはあるんですかね。余りないんじゃないですか。つまり、それこそそれは最後の最後の決断になるわけですから、方向性を一生懸命探っていくということは、私たちはやりたいと思っていますけれども、最後は結局政治的決断になり、国会での決議になると思います。

○司会

ほかに、どうぞ。

○質問

かなりかぶると思いますけれども、改めて今回の税調は今日が初めてということで、最大の課題を御説明いただければと思います。

○香西会長

今回の会合は、これからどういうふうに議論していったらいいかについて、委員の皆様方の御意見を私としては聞かせてもらいたいということで会議をやっていたい

たということです。それについては、いろんな御意見があつて、例えばピースミール、伊藤元重さんが言っていましたけれども、何かあるからそれに対応するという対応的なものではなくて、何かもう少し最適な姿はどういうものかという、そういう方向からの問題提起がないと、今の段階ではなかなか説得力がないのではないか。そういう御意見もあったわけです。

そのほか、そういうアプローチの問題とか、方法、例えば税収に中立的な仮定を置いて構想した方がいいのではないかとか、それがいいのかどうかとか、そういう御議論もありましたから、それぞれ考えていただいているわけです。

今日は、相続税についてでありましたけれども、ほかにも今年は国際課税の問題についてもいろいろ議論があり得るだろうと思いますし、そのほか景気がどうなるかということもまだまだ、経済の見通しについては諮問会議の方ではとにかく一定の判断を下されるだろうと思っていますが、それも政府としての判断ですから、それが秋までその判断で行くかどうか、そういうこともいろいろあり得るわけです。これは何もひっくり返るということを行っているわけではなくて、いろいろ努力していても簡単に結論が出るかどうかということは、私は直接担当しているわけでもありませんし、今ここでそれを知っていないわけですから、しかし、それは諮問会議等で計算できれば、私どもにも伝わってきて、それを検討しながら作業を進めていくことになるだろうと思っています。

○質問

すみません。よろしいですか。ごめんなさい。質問が悪かったです。今日と言いましたけれども、今回の一連の政府税調で一番取り組みたい課題についてお伺いできないでしょうか。一番の課題と考えることを言っていただければと思います。

○香西会長

何が一番になるか自体がいろいろなことで転換するかもしれません。私がこれだと選んでも、それはひっくり返ってしまうかもしれませんから、私として言えば、むしろ、どういうことが問題になっても、とにかく生き残れるような答申にならなければいけないだろうと、やや欲張ったことを考えているわけです。

やはり1つ大きいのは、社会保障と税の関係をどうするのか。去年はそれに関連して、消費税の役割について言及している。それをどうするのかということは、誰が見ても逃げられないテーマであることは間違いないと思います。ただ、思ったとおり、それが一番のテーマになるのかどうかということ自体、これはまた別の条件で、国家的な決定は別の形で行われる可能性は十分あるわけですから、その点については、これが一番だといって、今、声を出して言うのは得策ではない。いろいろ複雑な状況の中で、何とか生き残りたいということで一生懸命考えているということが、しばらく続くのではないかと私は思っております。

○司会

ほかにかがででしょうか。

○質問

先ほどの補足でお伺いしたいんですが、今、最大の課題は、誰が見ても逃げられないテーマであるという社会保障と税の関係でいいますと、消費税率の引上げの時期などについては、結局、政治的な決断であるという見解を改めて示されたんですけれども、ただ、去年とちょっと違うのは、例えば来年は基礎年金の国庫負担の引上げが法律で決まっている時期であるとか、去年と比べて特に時期的に待ったなしの状況になっていると思うんですけれども、それでも時期については分からないというか、お考えを明示されるというのはまだはっきり言えないような状況ですか。

○香西会長

私の意見を申し上げても、それを決めている人たちが言っている意見ではないわけなので、単に感想、今のところではそう感じているというぐらいの話であって、結果として、それは現実となる事態とは余り関係がない話です。だから、そういうことで、頭を余り悩ませたくないということでございます。

○司会

どうぞ。

○質問

先ほども経済成長率の今後の見通しについてということがあったと思うんですけれども、アメリカ景気も悪くなってきていまして、かなり下振れが予想されていまして、いわゆる 2011 年度のプライマリーバランスの黒字化というのに想定されている歳出削減を行っても、かなり足りないのではないかという話になってくると思うんですが、一方で、原油高、原材料高の中で、増税はしづらくなっていると思うんですけれども、こういった足元の状況をどうやって打破していくと考えているのか教えてもらいたいと思います。

○香西会長

状況を打破することは、税調の仕事としては重荷が大き過ぎるのであって、政府が全力を挙げてもその状況は変わらないかもしれないわけです。ですから、税調がどうしてそれを脱却できるかということは、考えられないのではないかと。アメリカの景気まで支配しているわけではありませんからね。

ただ、世界的に不況になってきたときにどうするかということについては、非常に難しい問題ですけれども、それは議論して、いろんな意見を考えておくことは有意義だとは思いますが、今すぐどうするんだと国連の事務総長か何かに聞くような形で聞かれても答えようがないということではないかと思えます。

○質問

去年と比べると、かなり厳しい状況にはなっているという御理解でよろしいんですか。

○香西会長

プライマリーバランスの問題については、諮問会議で間もなくいろんな計算が終わるのではないかと期待しているんですけども、違うんですか。私はそれ以上のことは知りません。

○司会

他にないでしょうか。もしないようでしたら、これにて本日の記者会見を終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。

○香西会長

余り実のない話で、心境ばかりしゃべっているようで非常に恐縮ですけども、今日のところはそういうことで御勘弁ください。どうぞよろしくお願いします。

[閉 会]